別　紙

令和２年８月２８日
指　導　第　二　課

教科書展示における閲覧者からの質問等について

教科書展示会場の受付場所に設置した質問等を記入する用紙（Ａ６版）に書かれた内容を転記した。

１　質問等記入用紙に書かれた件数

・　総数　１１件

（・　教育センター展示：　１件（６月１２日（金）～７月１日（水））
・　中学校展示　　：１０件（６月１５日（月）～８月４日（火））

２　質問等記入用紙に書かれた内容

⑴　採択全体について

○　現場の教員がともに意見を交わし、自治体ごとの採択より、各校集約が優先されることを希望する。

⑵　教科書の大きさ・重さについて

○　教科書が重たいことに驚いた。これだけの量を学習する中学生に同情する。

○　教科書のサイズが大きいことに驚いた。大きく、分厚いので、子どもたちの持ち帰りが大変だと思われる。できれば学校に置いて帰ること（「置き勉」）ができるようにしてほしい。

○　本が重たくて、生徒が持ち帰るのが大変だと思われる。対策をしてほしい。

⑶　教科について

①　社会科　歴史的分野

○　東京書籍株式会社について

・　原爆被害の記述が弱いと思われる。中学生が共感できるような体験談が本文の記述にない。また、原爆投下の歴史的背景の記述が弱いと思われる。社会科でしか学べないテーマなのに、記述がないのはいかがなものか。

○　帝国書院について

・　原爆被害及び放射線被害の記述がある。「ソ連に対して優位に立つため…」など歴史的背景に迫る記述があり、深く学習することができると思われる。

○　山川出版社について

・　中学校の免許を持つ元教員として、自分が使って授業をすることをイメージすると、１番オーソドックスで使いやすいと思われた。昔と比べると、全体的に教科書に掲載している資料が多くなっているが、あまりに資料が多いと、どこを見たらよいのかわかりにくいのではないか。コラムやまとめなど、生徒の思考や歴史の流れを寸断しない適切な教科書だと思われる。また、琉球やアイヌ、普通選挙、植民地政策等についてもコラムで取り上げており、子どもたちが歴史を立体的に学ぶのに良い。

・　他者と比べると、記述はしっかりしているが、フォントが少し小さいと感じた。

○　育鵬社について

・　原爆被害の記述がないのではないか。放射線被害について、測注等にも一切書いていないのはなぜか。また、歴史的背景には触れず、御前会議や昭和天皇のエピソードをたくさん記述している。当時の国民が置かれていた状況を書いていない。

・　日本のことを「我が国」と表記していることに強烈に違和感を覚えた。多文化共生、グローバル、SDGS 等が叫ばれている中、あまりに自国至上主義ではないか。また、原爆に関する記述が少なく、長崎については日付も記載されておらず、「(広島投下の) その３日後」との記述であった。爆風や高熱被害は記載してあるが、放射能については記述がない。広島市の子どもが学ぶにはふさわしくないのではないかと思われる。案内役の女の子のキャラクターが、口元やほほに手を当てているケースが多く、言葉づかいも「～かしら」のように性別で固定観念を持たせるような内容になっているのではないか。

・　本文の記述が主観的ではないか。もっと、大きな視野で、科学的な理解を深められる教科書を採択してもらいたい。

・　「なでしこ日本史」は、歴史の学習に科学的に必要なコラムなのか。

・　大和朝廷は、古墳時代に成立したような記述があるが、８世紀以降ではないか。自分は、社会科の教員をしていたが、この記述はいただけないのではないか。また、太平洋戦争を「大東亜戦争」と表記していて、日本が東南アジアやインドを解放したと記述している。日本は明らかに侵略戦争を行ったのであり、生徒たちが（海外に）留学をした際、この教科書で学習したとおりの主張をしたら、国際的に恥ずかしいのではないかと思われる。

・　近代における日本の戦争や植民地支配の記述が特に良くないと思われる。英雄を中心にした戦史物のように記述し、本質の規定が不明確ではないか。歴史を日本の物語のように描いており、歴史から未来への教訓を見出すことができないと思われる。

○　学び舎について

・　原爆被害について、本文中に記述が書いてある。放射線被害についても、中学生が実感として考えやすいと思われる。また、歴史的背景について、アメリカが原爆を投下した理由として記述してあり、戦争を進める側の仕組みについて考えることができる。

②　社会科　公民的分野について

○　教育出版について

・　日本国憲法の最も大切な考え方として「個人の尊重」が明確に記載されている。現存する差別や課題についての資料も豊富である。

・　人々の生活の生き生きとした動き、写真が分かる。核兵器禁止条約の取り扱いが良いと思われた。外国人など、人権に関する例や記述が良い。

○　帝国書院について

・　憲法、政治、経済等、子どもにとっては取っつきにくいと感じる分野も、自分の生活とどのように深く結びついているので学習しやすい。

○　育鵬社について

・　文章の端々に基本的人権の制限や国民の義務がにじみ出ており、採択にふさわしくないと思われる。

・　平和主義の記述、外国人の人権、立憲主義や憲法の位置づけなど、重要な部分の捉えがよくないと思われた。
・　日本帝国憲法がほぼ全文掲載してある（他者は抜粋）が、必要なのか。
・　巻頭に、「公民」を学ぶことについて２ページにわたって記載しているが、「公」を強調しすぎて気になった。他の発行者と比べても、内容・量ともに際立っていると思われた。
・　歴史同様に、本文の記述が主観的だという印象を持った。個人の尊重を土台にして、社会の一員として生きていける人格の育成を図る教科書を採択してほしい。

③　技術・家庭科　家庭分野について

○　教育図書について

・　家族や家庭にはさまざまな形があることが掲載されていて好感を持った。現在であれば、同性カップルが掲載してあってもよいのではないか。また、男女共同参画についても記載がある。その他の面でも、よりよく生きていくための知恵や世の中の課題が分かりやすく掲載してあり、学習した後に保管しておきたくなる教科書だと思われた。